小学校　特別活動　部会

部会長　市場小学校　校長　井上　憲治
実践者　市場小学校　教諭　大久保利詔

1　研究主題

代表委員会活動の指導と評価の一体化
～育ちの見とりと、指導に生かす「そのつど評価」～

2　主題設定の理由

児童会活動における代表委員会活動で児童が議題内容を話し合い、判断し、よりよい内容に決定するまでの一連の実践を行うようになるためには、話合いの経験と判断の基準となる価値観をどのように育てるのかが重要になる。それは、毎月開催される代表委員会や委員会活動での教師の指導はいうまでもないが、学級活動や日常の学級経営において、常に価値ある行為や活動の意義を取りあげて、そのつど言葉による評価（賞賛）を行うことで浸透していくものである。このような価値基準や意義の深さをおさえた指導を繰り返し行うことが重要になる。その繰り返しは、児童が議題内容を考え判断を行う際の価値基準になっていく。「この内容ではどうか」と議題を話し合い、決定する時、児童は、その内容がもつ価値や意義を発達段階（学年）に応じて吟味し、判断していくことになるからである。

また上述の内容は、児童の価値観と判断基準を育てていく上で、最も重要な要素になると考えたからである。

3　主題の意味

（1）指導に生かす評価の一体化（見とりとそのつど評価）とは

代表委員会の最中、教師は助言を行うことが指導の中心になり、評価活動の主たる場面は、終末に行われる教師の話になる。ここで、児童の発言や態度を具体的に取り上げ、価値づけ、評価内容を児童に返すことが肝心である。また、発達段階や学級会の経験値に応じて、発言の仕方やリアクションの取り方、枕の付け方（つなぎことば）等を、機会を捉えて教師がそのつど取りあげ、価値づけた指導をすることも重要になる。評価の一体化とはこのような児童の発言、反応への見とりと価値付けを繰り返すことであり、その見とりとそのつど評価が、学級会での考え方や表現の仕方を深化させ、思考・判断・実践への確かな育ちを促すことになるのである。

4　研究の目標

代表委員会において指導と評価を一体化させるには、話合い活動のオーソドックスなスタイルを毎月の代表委員会に定着させる必要があると同時に学級会で必ず実践する必要がある。特に、児童が「こんな学校にしたい」という願いをもち、みんなで話し合い、実践に移す児童会活動において本研究を進めるにあたっては、正しい価値観に裏打ちされた高学年の学級経営と、学校内に支持的風土が醸成されていることが絶対条件である。そのような条件のもと、児童会活動における代表委員会活動での教師の指導と評価の一体化の在り方を究明する。

5　研究仮説

代表委員会での話合いの進め方を児童運営委員会に指導し、基本的な話合いのスタイルとして年間の代表委員会の話合いで定期的に実践し、話合いの各場面で、価値ある発言や行動をそのつど評価していけば、その話合いの経験の積み重ねが、よりよい学校にしようということに目を向けることができる児童を育て、児童自らが学校内における諸問題を議題として取り上げる自発的な児童会活動へと発展するとともに児童が、自らの話合い経験を生かしたり、学級生活の経験から考えたりして、自分自身の言葉で思いを伝える言語活動にも寄与するであろう

6　研究の計画

（１）【議題発見への関心・意欲を育てる】

児童は、まず自分たちの問題として、今、よりよい学校を創るために児童会活動に何が足りないのか？何が必要なのか？ということを分からなければならない。しかし、子どもたちの議題発見力は、特に学級活動経験値の差によって、大きく違いが生じる。そのため、学級活動の基本を発達段階に応じて指導し、理解させなければならない。それと同時に児童の内面に、そのことに目を向け、何とかしなければという積極的な関心や意欲を喚起させなければならない。

（２）【関心・意欲の芽を育てる】

上述ような実践的な関心や意欲を喚起するためには、日頃から高学年児童に学校内の諸問題を意識できるように意図的、積極的に児童へのアプローチを行い、児童の内面に関心・意欲の芽を育てなければならない。それと同時に、児童自らが議題を発見したと思えるような後支えやしかけ、そして学校内の児童会環境も必要になる。これらの指導を心がけ、児童会の問題、私たちの問題としての議題が取り上げられた時、そのことを高く評価することで、議題発見への芽が育っていくのである。

（３）【解決の考え方】

代表委員会での話合いの先にあるものは、算数的な明確な答えではなく、全校児童の思いや考え方を伝え合いながら生まれる児童会みんなでつくりあげるひとつの《考え》なのである。その為には学級会において、マイナス方向の意見だけを出し続けても何の解決にもならないこと。友だちの考えを肯定的に捉え、プラス思考でよりよいものを作りあげようとする姿勢。よりよい内容にレベルアップしようとする話合いのもちようが大切なのだという前提を理解させなければならない。そのことが結果的に代表委員会でも折り合いをつけて話し合うことに繋がるのである。

（４）【決定のよりどころ】

代表委員会で決定していく場面で、よりどころとなるのは、児童会が提案している児童会目標であり、それに裏打ちされ、児童計画委員会でじっくりと話し合われた提案理由なのである。児童会目標や提案理由に帰着して議題内容を吟味し、決定していこうと考え判断する代表委員の態度は、各学級における朝の会や帰りの会の中で、常に学級目標を意識しためあて作りや振り返りを指導しておくことからも醸成されるものである。

7　指導の実際【第１０回代表委員会（指導案）】

（１）議題選定までの経過

①　議題が決定するまでの経過（議題設定の理由を含む）

児童会活動は、学校の全校児童をもって組織するが、本校ではその運営を主として

高学年児童が　行っている。それは、高学年になると学校への所属感も高まり、集団的な活動の経験も増し、他のグループと協力して集団生活の向上発展を図ろうとする態度も身についてくるからである。さらに、運営にかかわらない中・低学年の夢も大切にする「全校的な視野」にたった活動も可能になってくると考えるからでもある。

高学年児童がそうしたよさを十分に発揮し、全校児童が協力してよりよい学校生活を築いていくためには、一人一人の児童が「こんな学校にしたい」という夢を持ち、考えを出し合い、お互いのよさを生かし合って実践し、問題を解決していくことが必要である。そのためには、学級における指導が児童会活動に大きく影響を与えることから、学級活動で自発的・自治的活動の体験を十分味わわせるとともに内容面で児童会活動との関連を図り、学校運営に協力している実感を味わわせることが必要であると考える。また、課題を解決していく際には、高学年児童だけではなく、全校の児童が協力し合うことが大切であり、年齢の異なる児童同士がお互いのよさを生かしあえるように配慮しなければならない。さらに、児童にとってより新鮮でダイナミックな児童会活動にしていくために、地域の保育園と連携したり、地域の行事に参画していったりするような活動内容とその範囲の拡大が望まれる。また、総合的な学習や他教科・領域との関連を図っていくことによっても、従来の児童会活動がよりダイナミックな児童会活動へと変容し、子どもたちの夢も大きくふくらんでいくことと考える。

このような思い「全校児童が協力して、より楽しい学校生活を築く児童会活動」を具現化するために、本校では４つのロングの児童集会【～一年生を楽しく迎える～ワクワク集会】【～僕らの願いよ天まで届け～七夕集会】【～人権の大切さを知ろう～なかよし集会】【～六年生の卒業と中学校への入学を祝う～思い出のメモリー集会】とショートの児童集会を５回行っている。また、学校の生活づくりに参画する態度や自治的能力を一層高めるようにする目的で【児童計画委員会による仕事分担と司会進行】で運動会の運営に協力している。

代表委員会では児童会が計画した毎月の月目標を達成する具体的な方法を各クラスで話合い、その報告と振り返りを毎月行っている。今回の代表委員会では、『運動会を成功させよう』の原案を修正・決定するが、特に児童会種目の３つめを各学級で決めてきた意見をもとに、各代表委員と各委員長の全員で話合い決定する。本活動は、学級会で拮抗した何かを決定していく話合いに場面に大いに寄与すると考える。

学校行事の『運動会』へ児童会が協力し、企画や運営の一部を担当する一連の活動は、異学年との絆を強めたり、市場小学校の一員としての所属感や連帯感を感じたりることができるとともに、仲間を大切にしながらよりよい学校生活をめざそうとする意欲をも育むことができる有意義な活動と考える。

② 特別活動と児童の実態

本校は学級数１６学級（含：支援学級１）児童数３８６名の中規模校である。特別活動にかかわる実態としては、クラブ活動：４年生～６年生で構成され、クラブ数は１２、毎月第３、４火曜日に実施（６０分）異学年交流を意識する意味でも、活動終了時に３つの学年が向かい合って振り返りを行うようにしている。

委員会活動：５、６年生で構成、委員会数１０）毎月第１週火曜日に実施。各委員会が独自に企画運営するイベントが多数ある。代表委員会は、毎月の第２火曜日６校時に実施、月目標の具体的な達成方法の報告と振り返りは、昼休みのミニ代表委員会で対応している。

児童の児童会活動への参画の様子は非常に積極的で、特に委員会活動では、各委員

会独自のイベント活動を積極的に企画運営し、楽しい市場小学校を目指して自主的に生き生きと活動する姿が見られる。このように児童の手で運営される積極的なイベント活動や集会活動の経験は、下学年児童への思いやりを育み、６年生への尊敬やあこがれを生み出すなど、児童の縦のつながりと絆を深くしている。さらに、各委員会へは、毎年蓄積している活動実績ポートフォリオを利用して、さらに積極的な委員会活動の展開を促しているところでもある。

代表委員会では、各学年の代表委員（３年～６年）を完全輪番制にしているため、話合いの形式や形態、進め方が各学級の学級会へのよいお手本となっている。話合い中は、児童運営委員が、３、４年生への原案の見方などアシストができる態勢をとっており、さらに机脚配置の工夫により上学年が下学年のお世話ができるようにもしている。また、次の代表委員や１、２年生の見学参加もできるようにしている。

今回、話し合われる議題では、各学級と各委員会から出される修正案の決定、児童会種目の決定、各クラスのポスター立候補の枚数報告を行う。

児童会種目の３つめを決定する話合いでは、【トトロのトンネル】【玉入れ】【綱引き】それぞれの種目がどのような意義をもっているのかを押さえながら話合いを進め、各学級にその活動内容と意　義が正しく伝わる話合い活動を展開してほしいと願っている。

③　指導にあたって

ア　事　前

５月に提案した、「市場小学校が楽しい学校になるための毎月のめあて」をもとに９月のめあて達　成へ向けて、学級としての具体的な取り組み方を報告するが、各クラスの取り組みがより確実に達成できるように、児童一人一人に具体的な方法を自己決定するように前回の代表委員会でも助言している。

「運動会を成功させよう」の提案については、５、６年児童が高学年としての責任感や学校への所属感をより感じさせるために、児童計画委員会で各委員会ごとに、めあて、スローガン、得点板作りなどの役割分担を行った。

各委員会からのお知らせは、内容が多いため、あらかじめプリントにまとめておいた。

イ　本　時

本時の代表委員会参加への課題意識が高まるように、各学級代表の児童は事前に９月のめあての具体的な達成方法を決定して話合いに参加している。各クラスの具体的な達成方法を代表委員全員にしっかりと伝えることができるよう援助・支援する。

ウ　事　後

立候補により作成されたポスターは、運営委員会児童が校内に掲示する。また、各学年の旗は、児童計画委員会と教師で入場行進に使えるように貼り合わせてポールに装着する。

「運動会」終了後には、各学級ごとにふりかえりを行いアンケートに記入する。代表委員会と校内放送でそのふりかえりの結果を報告し、次の集会へ活かしていくとともに高学年児童には運営に参画し、成功させたぞという成就感と自己有用感をより多く味わわせ、次の活動へとつないでいきたい。

（２）　目　標

○　代表委員会への参加と「運動会」へ児童会が積極的に協力する提案を通して、市場小学校への所属感や連帯感を感じるとともに、よりよい学校生活をめざそうとする。

（関心・意欲・態度）

○　代表委員会の活動がみんなで楽しい市場小学校をつくっていくことへつながるとわかり、「運動会を成功させよう」の提案を通して、活動の価値や意義を考えることができるとともに、代表委員として、原案に込められた思いや願いを、学級へ正しく伝えることができ、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができる。　**（思考・判断・実践）**

○　議題を決定していくための話合いの手順が分かるとともに、「運動会」へ積極的に協力する児童会活動が、楽しい市場小学校を目指し学校生活の充実と向上へつながることを理解できる。　**（知識・理解）**

○　９月のめあてを達成するための各クラスの具体的な達成方法を考えて代表委員会へ臨むことにより、代表委員会へ課題意識をもって参加できるとともに、代表委員会ノートを利用して、夏休みのめあてを振り返る評価活動を行い報告し合うことができる。

（言語能力にかかわること）

（３）指導計画

①　事前の活動（児童運営委員会）

児　童　の　活　動	教　師　の　指　導　と　援　助	日　時
①児童計画委員会として運動会では何ができるか話合い、『運動会を成功させよう』の原案を作成した。	・「運動会を成功させよう」を各委員会が協力して運営できるように、児童計画委員会で提案理由やめあて、内容を考え原案作成を行った。 ・相手意識に立ち読みやすい原案作りを助言。 ・児童会種目のアンケートを採った。 ・各委員会の連絡とアンケート集約。	９月３日 昼休み～ ９月４日 昼休み～
②次回代表委員会の議題内容を検討し決定した。 ・議長グループでリハーサルと黒板作りを行った。	・『運動会を成功させよう』の原案を提案。児童会種目のアンケート集約。過半数に達していない【トトロのトンネル】【玉入れ】【綱引き】を再度各クラスで検討してもらい、代表委員会でそれぞれの種目のもつ特性や意義を提案理由に沿いながら検討し決定する旨を伝える。	９月５日 ミニ代表委員会 （昼休み）
③提案者を交えて議長団と原案の修正・決定の最終リハーサルを行う。	・提案者には原案の棒読みではなく、伝える相手を意識して、内容を補足しながら提案するように助言する。 ・話合いの流れを予想して、対処の仕方を十分に考えておくように助言する。	
④代表委員会を開き、原案の修正・決定と児童会種目の決定。ポスター立候補の枚数の報告を行う。今月のめあての具体的達成方法の報告、各委員会の提案、連絡を行う。	・児童会種目の特質や意義について十分に伝え合い意見交流ができるように助言しておく。	９月９日 昼休み

②本　時

ア　本時のねらい

○　代表委員会の活動がみんなで楽しい市場小学校をつくっていくことへつながるとわかり、提案された活動の価値や意義を考えることができる。**（思考・判断・実践）**

○　代表委員として、決定した内容を学級へ正しく伝えることができるとともに、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができる。　**（思考・判断・実践）**

○　今日の話合いのめあて

「話：クラスの人に正しく伝えるために聞きやすい声で発表しよう」

「聞：聞きもらしがないように話している人の方を向いてしっかり反応しよう」がわかり、今日のめあてに添ってふりかえる評価活動を行うことができる。

（言語能力にかかわること）

イ　指導上の留意事項

○　事前に９月のめあて達成へ向けて、学級としての具体的な活動内容を決定してから代表委員会へ臨むよう、また、各クラスで検討した児童会種目を理由をつけながら代表委員が発表できるように、各担任へお願いしている。

○　児童が自主的な活動内容を逸脱しそうな場合は、適宜、適切な指導を行う。

※　上記のように、ねらいにかかわる視点をもちながら活動を見守り、最後「先生の話」の中で今後の活動がより意欲的になるように、今日の代表委員の頑張りやよさに着目した評価を行う。事後においては、振り返りを行い、成果と課題を報告し合う活動を通してお互いに認め合えるように、活動支援を行う。また、協力と頑張りぬいたことを大いに称賛し、確かな実感と満足感を感じさせながら、次の活動につながるように常にポジティブな評価活動を行いたい。

ウ　評　価

1　個人の変容に関する評価

○　代表委員会活動がみんなで楽しい市場小学校をつくっていくことへつながるとわかり、提案された活動の価値や意義を考えることができたか。

（思考・判断・実践）

○　学級へ正しく伝えるために、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたり、反応したりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができたか。　**（思考・判断・実践）**

○　今日の話合いのめあて「話：クラスの人に正しく伝えるために聞きやすい声で発表しよう」「聞：聞きもらしがないように話している人の方を向いてしっかり反応しよう」がわかり、今日のめあてに添ってふりかえる評価活動を行うことができたか。　**（言語能力にかかわること）**

2　集団の変容に関する評価

○　話合いの適切な場面で、異学年のお世話をしたり、議長の発言に反応したりして、協力しながら進め、集団決定することができたか。　**（思考・判断・実践）**

③　事後の活動予定

児　童　の　活　動	教　師　の　指　導　と　援　助	日　時
・低学年に原案の説明に行く	・必要な部分だけを分かりやすく説明する。 ・立候補数にはこだわらずに描いてもらう。	9月6日
・原案の修正決定を行い、ポスターの立候補を受け付ける。		9月１０日 ミニ代表委員会
・ポスターを提出してもらい、校内掲示をする。		9月２０日
・「運動会」を実施する。 ・児童計画委員は集会の振り返りを行う。	・成果と課題を報告し、お互いの活動を　認め合えるように、活動支援を行う。 ・協力と頑張りぬいたことを大いに称賛し、確かな実感と満足感を感じさせながら、次の集会につなぐ。	9月２９日
・ポスターの回収を行う。	・見本のポスターを貼り替える	１０月１日
・「運動会」を振り返ってのアンケートを行う	・アンケートを集計し、次回の集会に活かす。	１０月４日
・１０月の代表委員会でアンケート結果を報告する		１０月　日

①本時活動展開計画

【児童運営委員会が本時代表委員会の事前活動を行う際に指導する内容】

第１０回　代表委員会の計画　平成２３年９月１０日（火）　第６校時
議　題 ○「夏休みのふりかえりと９月のめあての具体的な取り組みの報告をしよう」 ○「運動会を成功させよう」原案の修正決定 提 案 者　○児童計画委員会 提案理由 ○運動会を通して全校のみんなが一致団結し、全校で取り組むことの達成感を味わい「みんなで頑張るからこそ感動できる。」よいうことを身をもって知ってほしいから。 ○児童会種目をすることで、全校や兄弟学年が一つとなり、絆をもっと強め、より楽しい学校生活を送ってほしいから。 ○運動会を通して、がんばること、協力することの大切さを知り、よりよい学校生活づくりにいかしてほしいから。　（キーワードは　～たいから） 運動会のめあて 練習中

〇運動会当日に精一杯力を出せるように一生懸命努力し、悔いのない運動会になるようにがんばろう。

当日

〇「みんなは一人のために、一人はみんなのために」この言葉を胸に全校で協力して感動できるような最高の１４０周年記念の運動会にしよう。

話合いのめあて

〇発：聞く人が聞きやすいように、大きな声でハキハキと発言したり、返事やあいさつ、反応したりしよう。

〇聞：発表している人の方を向き、聞きもらしのないようにうなずきながら聞こう。(キーワードは　～よう)

役　　割

議　　長　（和才　萌々萌）　副 議 長　（小椋　愛里）　ノート書記　（久保　早礼）

黒板書記　（真木　優伽、大藤　育実）　提案者　（樋口　克幸、鳥井　風香）

主な活動内容	教師の指導・援助と本時の留意点
1　はじめの言葉	・議長団に大きな声ではっきり短い時間で行えるように助言する。
2　めあての確認	・【理由をつけ、みんなに聞こえるように発表する】 視点を代表委員に与えるように議長へ助言する
3　夏休みのふりかえり （ミニで） ９月のめあての報告 （ミニで）	・【めあての紙がみんなに見えるように、聞き取れるように発表する】 視点を代表委員に与えるように議長へ助言する
4「運動会を成功させよう」 の修正・決定　（６校時）	・まず訂正をしてから、提案を始めるように助言、提案者へは、各種目の意義など補足説明を行いながら話合いを進めるように助言する。
5　児童会種目の決定	・質問に答えられないときは、教師に聞きに来るように指導する。
6　各学級から	・お願いの内容の解決方法で、議長判断がつかない時は、教師に相談するように指導する。
7　各委員会から	・あらかじめ提出されていない委員会の発表がある時は、最後にその委員会に発表させるようにする手順を助言する。
8　ノートに書く時間	・ノートへ書く内容を伝えるように議長へ助言する。
9　代表委員会のまとめ	・ノート書記に本時の話し合いを簡潔にまとめて、わかりやすくみんなに伝えるように助言する。
10　めあてのふりかえり	・めあてにそった評価活動をするように助言する。
11　先生方から	・意見発表にがんばった児童や発表の仕方に気をつけた児童に対　して賞賛を行い、以後の活動への意欲を喚起したい。
12　今日の活動評価	・代表委員の頑張りに着目した活動評価をするように助言する。
13　終わりの言葉	

※　児童運営委員は代表委員会終了後に、
本日の代表委員会をふりかえる活動を行う。

※　本計画は９月９日現在予想される活動である。

８　研究のまとめ

（１）【実践と振り返り】

この代表委員会では、検討の結果、運動会児童会種目を「トトロのトンネル」に決定し、アンケートによりすでに決定していた、「ジャンピングマリオ」「へびへびカモーン」と合わせて運動会へ向けて練習を繰り返した。どのゲームも下学年を思いやり意識したゲーム練習となり、運動会当日も全校児童が、心をひとつにして紅白で対戦し、運動会のめあてと、児童会目標の「よりよく、より楽しい市場小学校を創る」を実践することができた。

９　成果と今後の課題

本時代表委員会では３つのゲームの価値や意義を考えながらより楽しい運動会にしようと話し合う児童の育ちを数多く見とることができた。これは今までの代表委員会の積み重ねと、各学級で、発言内容や考え方を見とり、そのつど評価し、児童に価値づけて返しながら育ててきた思考・判断・実践の育ちそのものであると考える。指導に生かす評価とは評定を行うことではない。今後も児童の育ちを見とり、後支えしながらさらに高みへと誘う評価活動を展開しながらよりよい学校づくり、学級づくりを目指していきたいと考えている。